

# 時事新報

明治十八年十二月十二日 土曜日  
 舊乙酉十一月七日 (辛、丑)  
 日入午後七時四分  
 日出午前七時四分  
 月入午後九時五十分  
 日出午前八時五十分  
 日入午後九時五十分  
 日出午前八時五十分  
 (西曆一千八百八十五年)

### 時事新報定價

一、零售每份五分  
 二、一月銀一元二角  
 三、三月銀三元五角  
 四、半年銀六元五角  
 五、一年銀十二元  
 六、外埠寄費在內  
 七、廣告費另議  
 八、代印各種帳簿  
 九、代印各種名片  
 十、代印各種信箋  
 十一、代印各種帳簿  
 十二、代印各種名片  
 十三、代印各種信箋

### 時事新報廣告料(前金)一行二付

一行廿四行 一日限 二日以上 三日以上 四日以上 五日以上 六日以上 七日以上 八日以上 九日以上 十日以上 十一日以上 十二日以上 十三日以上 十四日以上 十五日以上 十六日以上 十七日以上 十八日以上 十九日以上 二十日以上 二十一日以上 二十二日以上 二十三日以上 二十四日以上 二十五日以上 二十六日以上 二十七日以上 二十八日以上 二十九日以上 三十日以上 三十一日以上 三十二日以上 三十三日以上 三十四日以上 三十五日以上 三十六日以上 三十七日以上 三十八日以上 三十九日以上 四十日以上 四十一日以上 四十二日以上 四十三日以上 四十四日以上 四十五日以上 四十六日以上 四十七日以上 四十八日以上 四十九日以上 五十日以上 五十一日以上 五十二日以上 五十三日以上 五十四日以上 五十五日以上 五十六日以上 五十七日以上 五十八日以上 五十九日以上 六十日以上 六十一日以上 六十二日以上 六十三日以上 六十四日以上 六十五日以上 六十六日以上 六十七日以上 六十八日以上 六十九日以上 七十日以上 七十一日以上 七十二日以上 七十三日以上 七十四日以上 七十五日以上 七十六日以上 七十七日以上 七十八日以上 七十九日以上 八十日以上 八十一日以上 八十二日以上 八十三日以上 八十四日以上 八十五日以上 八十六日以上 八十七日以上 八十八日以上 八十九日以上 九十日以上 九十一日以上 九十二日以上 九十三日以上 九十四日以上 九十五日以上 九十六日以上 九十七日以上 九十八日以上 九十九日以上 一百日以上

## 時事新報

### 支那人の舉動

支那の運命は往々、遂に歐洲文明の風化せらるゝが相違なく、隨て今、帝國の到底今のまゝに永續すべきものがあるまゝと、世界の人々の共に疑ふ所にして、我々も亦其中の一人たるなり。併し、我が支那の運命は、目下の事、關係少なく、目下の事は、矢張り目下の事情に支配せらるゝものなるが、永遠未來の事と想像して、目下の事と等閑視し、目下、下手な事を、如くは智者の事に、ゆゑざるあり、今より五年前の支那の、いざ知らず、又今より五年後の支那も、亦いざ知らずとして、目下支那の運命を察するに、次第と其感と、覺し、次第と其活潑力を増し、次第に其自信の心を厚くし、四隣と睥睨して、大膽に其運命を始先んとする、形跡は、誠と奇、奇、奇千萬の事なりと云ふべきを得ず。

支那の運命は往々、遂に歐洲文明の風化せらるゝが相違なく、隨て今、帝國の到底今のまゝに永續すべきものがあるまゝと、世界の人々の共に疑ふ所にして、我々も亦其中の一人たるなり。併し、我が支那の運命は、目下の事、關係少なく、目下の事は、矢張り目下の事情に支配せらるゝものなるが、永遠未來の事と想像して、目下の事と等閑視し、目下、下手な事を、如くは智者の事に、ゆゑざるあり、今より五年前の支那の、いざ知らず、又今より五年後の支那も、亦いざ知らずとして、目下支那の運命を察するに、次第と其感と、覺し、次第と其活潑力を増し、次第に其自信の心を厚くし、四隣と睥睨して、大膽に其運命を始先んとする、形跡は、誠と奇、奇、奇千萬の事なりと云ふべきを得ず。

なりと斷言せられてこれと争ふの工風ありし彼の安南國を世間晴れての佛蘭西共和國の屬邦に改めたるの天晴れの手際ありと云はざるを得ず。安南國土の廣さ殆んど我日本國の伯仲するのみならず、其境を支那帝國に接する地形上の便利は、朝鮮を除くの外、亞細亞極東に又と有るべからざる形勢の一大王國なり。此一大王國と買ふが爲めに、數千萬の金と抛ち、さりとて、戦略上の商略上に、毫も佛人の面目利益と損する所なきなり。左れをにや、佛人も一旦は、時、時、當局者の失策と鳴らして、内閣の更送とも命じ、さるの後の新當局者をしく、折角落手したる安南國を棄て、去先んとするにも、ゆゑ、依然として、東洋侵略策と繼續せしめ、自ら喜ぶ居る有様を見れば、佛人の決して世人の想像する如く、情の爲めに、利と忘るゝの人、あらざることを知るに足るべし。斯れ如く、安南事件、關し、佛蘭西の落着方は、決して佛人の不面目に歸せずといへども、從來世人が支那を輕蔑するよとの甚しき佛人の爲めに、一嚇せられ、なほ二も三もなく、國郡と明渡すか、んと思ひの外、戰の勝敗は、兎も角も、敢て俄か、降を軍門にお乞ふが如き卑怯な者、にあらざると、覺悟と示したるを見て、漸く、恭敬の意と表すると、同時に支那人も、大目より、待ひ所と知り、又大目より、悟る所ありて、漸く、意と兵備擴張、中央集權、文明輸入、進取示威の方向、傾け、新に海軍省と設け、軍艦と造り、電線と各地と通じ、軍兵と境上に屯駐し、朝鮮の國事に干渉せ、國債と起し、鐵道と布設せんとする等、皆近來の著るべき事蹟にして、世人の共に見る所あり。若し支那全國の實力を實用し、支那人の自信の決意と變せしめて、此儘に進行すること、もあらんば、數年ならずして、支那帝國の面目と一新すべきは、勿論、亞細亞極東の國交、實際上に大變化と起すべし。況や、知るべし、殊に、我輩の最も關心する一事は、今回支那政府が、マヤヤン、マゼン、商會の手と、經て、英京倫敦、にて、新に、五千萬ポンド(二億五千萬圓)の公債を起したりとの風説ある事、是れなり。此説の眞偽は、我輩これと今日に、明言するものと、能はざるといへども、風説としては、此二億五千萬圓は、兵備擴張、鐵道布設等の用、に供するものなりと云ふが、あるまじき、此説とて、眞ならんまめ、んば、實由々しき支那政府の英斷ありと云ひざるを得ず。假りに、二億五千萬圓の内、一億圓を投じて、海軍と擴張すとせんか、大小軍艦百艘、乃至、百五十艘を得るは、容易なり。又、其殘額一億五千萬圓を、鐵道の資金に供せんとせんか、三四千英里、鐵道を布設するは、容易なり。斯く容易に、鐵道を布き、容易に、軍艦と造り、内國の兵事商會の整備、兼、共に、二三十艘の軍艦、の實斷ありと翻へし、て、常に、日本海を、周旋し、日本港に、碇泊し、沿岸の測量等、あふべからざる時節、至り、我々日本人は、隣國の爲めに、目出度し、と祝詞を呈するのみ、あても、濟むまじく、隨分、心願なる事、ならん、兎に、角に、我々日本人も、早く、時に、及んで、少しく、隣國の事、を、眼を、配るも、亦、無要の事、に、ゆらざるべし。

### 官報

明治十八年十二月十日  
 任外務大輔 特命全權公使從四位勳二等 青木 周藏  
 (本年十二月十一日官報)

### 雜報

○利獸毒蛇の害 印度地方にて年々人畜が猛獸毒蛇の害に罹るもの多きといふ人の知る處なるが、昨年は一昨年お比すれば被害の人員は少しく減少し、一昨年中猛獸毒蛇の爲めに殺されたる人数は合せて二萬二千九百零五人あり、去年中は二萬二千四百二十五名に減じ、其中に毒蛇が噛まざるもの、數は一昨年より二萬六千七百人なり。去年は一萬九千六百二十九人に減じ、さる由左りながら、被害の家畜の數は之を反し、一昨年には四萬七千四百七十八あり、去年は増て四萬九千六百七十二人とあり、此中猛獸の害に罹たる者の四萬七千九百四十四毒蛇の害に罹たるもの一千七百二十七なり。又猛獸の中に、虎と豹と、其害大抵同様なるものと見え、昨年中虎の爲めに殺されたる家畜の數は一萬九千六百八十、豹に害せられたるは一萬九千六百九十九なり。し由、又同地方にて殺したる猛獸の數は一昨年には一萬四千八百九十ありしが、去年は増えて二萬三千七百七十四となり、又毒蛇は一昨年より四十一萬二千七百八十二なりしが、去年は減じて三十八萬九千八百八十一となり、又政府より猛獸毒蛇を殺したるものに與へたる賞與金は、一昨年より十七萬四千三百五十五ルーピーにして、去年は二十四萬六千五百二十五ルーピーなりと云ふ。

○朝鮮人の漂着 朝鮮の海岸にて難破せし漁船の五名の朝鮮人と載せて五島に漂着し、本月二日長崎に來りしが、同船は五島に若る前十二日間海上に漂流去、僅か計り貯へありし薩摩芋を以て露命と繋死し、由にて長崎に若るや、日本政府は右五人のものを病院に入れ、次回の便船と俟て之を朝鮮に送附する筈あり。(本年十二月五日ライオンサン)

○擊劍納會 紀尾井町なる靜寧館に於て來る十五日宮内官更及び華族子弟の擊劍納會の試合を執行するよし。

○鹿兒島通信 十一月三十日鹿兒島通信員發郵。

○鹿兒島縣通會 同會の去廿日、以て開會せしこと、は前回既に報道に及びたるが、爾來不相替日々開會あり、議事の掛取りも能く目下議案は五分二は既に決議となれり。最も本年は取分け人民の難澁を極むる者多きを以て各議員、誠懇と唱ふる方多きが如し、就中本日其二大會を舉りたる教育費は、内女子教壇并に之れに附屬せる幼稚園と全廢せし如きは、今日までの決議中の重なるものにて、議員中最も有力の人々は、概して此の全廢説と主張し、さるが之れに反對の議員も多し、一時は随分議場の喧然たるを覺えたり。然れども、採決に至り十三名に對する十四名即ち僅一名の多數にて、竟に前陳の如く決したり。元來全廢論は、初め女子師範學校として獨立し、校舍ありしも、縣會に於て(十六年と覺ゆ)其費目と廢棄せしより、理事者は單に女子教壇の名稱と附して、鹿兒島師範學校の一部とせしめ、爾後縣會議場毎に何時も全廢説多數ありしも、其都度不認可にて、辛くも今日に至れるなり。されば本年も同様、議決通り認可は、覺望なしと傍聴人等は、話し合へり。諸君全廢説の種々ある中に、女子教壇は必要ならずと説くれば、地方税を以て支辨すべきにあらざると論するなり。就中尤も勢力あり